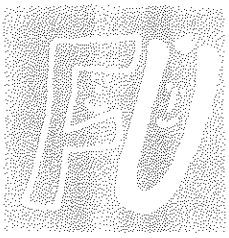
社会福祉法人ふたかみ福祉会 2025(R7)年度事業報告

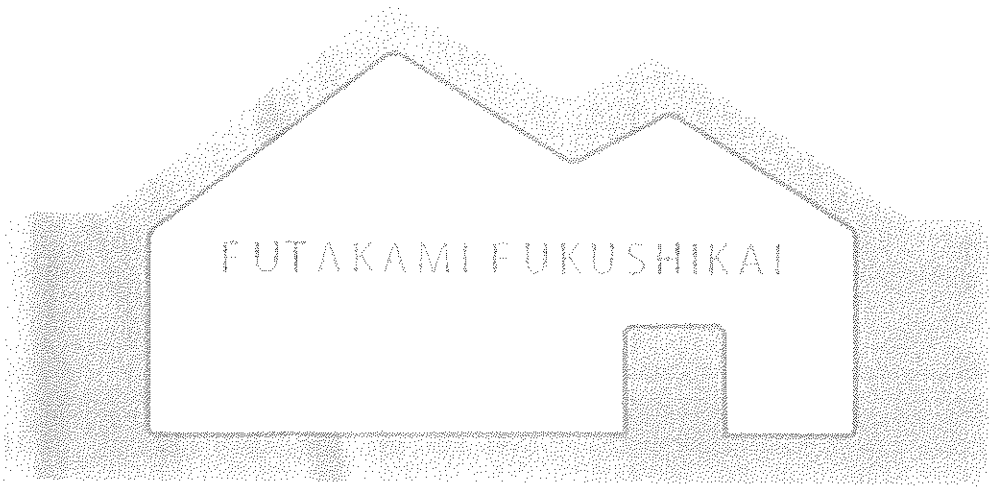
(案)

―かがやく命を大切にする社会をつくります―



もくじ

1. 法人経営 ・・・・・・・・・・・・・・2
2. はびきの園 ・・・・・・・・・・・・・3
3. ほまれっこ ・・・・・・・・・・・・・5
4. ハピバール ・・・・・・・・・・・・・7
5. 障害者生活耕房大西記念センター・・・9
6. 支援センターはる (生活・就業)・・・13
7. 研修報告 ・・・・・・・・・・・・・20
8. 各委員会 ・・・・・・・・・・・・・21



2025(r7)年度事業報告案

2026年3月31日現在

はじめに

1 経営・管理事業報告(開催日)

理事会　5/19. 6/9.27. 11/17. 3/30

評議員会　6/9

管理者会議　4/1.8.15.28. 5/13.20 6/3.10.17. 7/1.8.15.29. 8/5.19. 9/2.9.16
10/7.14.21 11/4.10.17. 12/2.8.16. 1/6.13.20. 2/3.10.17. 3/3.10.17.31

主任会議　4/22. 5/27. 6/24. 7/22. 8/25. 9/30. 10/28. 11/25 .12/23. 1/27. 2/24 . 3/24

法人職員会議　5/24. 11/15. 1/10. 3/14

以上会議 理事長・常務理事出席

中期計画検討委員会　11/4. 11/21. 12/16. 1/16. 1/27. 2/5. 16. 3/4

2 危機管理委員会　23第4四半 第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期

第3者委員会	4/11	7/11	10/31	2/20	4/17	
虐待防止委員会	4/11	10/31	身体拘束適正化委員会		7/11	2/20.

3 研修　(内部研修 研修委員会を中心に

法人間連携研修ひびき福祉会合同　公開講座

中堅	6/7	11/22	鴻上圭太氏 (大阪健康福祉短期大学)
基礎講座	7/5	9/6	田村和宏氏(立命館大学)
虐待防止研修	1/10		深谷弘和氏 (天理大学)

4 人事　正規職員33人　職員総数101人

正規職員		正規外職員		無期転換	
採用	退職	採用	退職	転換	退職
4	1	2	3	0	0
育休	再雇用	育休	再雇用	障害者雇用	
1	2	0	2	3	

5 事務局

1)主な業務

法人運営	健康経営優良法人認定。奨学金代理返還制度、助成金申請、
人事業務	最賃改定、働き方改革対応、オフィスステーション活用
給料業務	勤怠管理システム「クロノス」を使用した勤怠管理 資格手当改定、処遇改善対応、時間有給対応
経理業務	法人カード,ETC導入、事業所への派遣
請求業務	報酬体系分析と対応
その他	採用・健康診断オプション検査、医者等の意見聞取り実施

※吉川(吉川徹)社労士事務所委託

伊東 中央経営アシスト 経理委託

2025 (r7)年度事業総括

事業所名　はびきの園

【事業所の特徴】

新規利用者は１名あり、退所予定者が１名あります。来年度の入所予定者は２名おり、ここ数年毎年新規利用者を増やしいています。しかし、新規利用者は重度に偏る傾向があり、何もしなければ今後もこの傾向は続いていくと予測しています。職員の質を高める部分では課題があります。運営面では安定的に推移してきた状況ですが、加算に助けられている状況があります。利用者の視点に立つ事はもちろんですが、それを実施する事が可能にできるように先を読んで進めていく必要があります。

【利用者支援に関して】

１、求められる実践書類を準備する事に職員差がある事が課題です。ルールを作ってきましたがどうそれをこなしていくかが今後の課題です。２、デザイナーと契約を行い、情報発信や商品作りに関わって貰いしました。商品は来季から具体化する予定になっています。３、アルミ缶の極端な高騰の助けもあり就労支援会計は黒字で終えたので、臨時賞与を出すことができました。今後は新しい仕事作りにも力を入れていきたいと考えています。４、給食は赤字事業で、材料費の値上げに伴い価格の改定をしました。しかし、利用者からは評価をもらい、喜ばれています。

【事業所運営に関わって】

１、職員確保では常勤５名、非常勤２名を追加、質の引き上げが課題です。２、利用者は維持し、加算の取得で大幅な黒字を確保しています。利用者確保は集まるようになっていますが、受け入れる質を上げる事が課題となっています。３、地域との結びつきでは駒ヶ谷小学校との交流にちからを入れる中で、合同の避難訓練を実施できています。その中で普段の生活での課題も見えてきました。26 年度実施のきょうされん全国大会の準備に取り組みました。

【職員育成研修】

１、法人研修に参加をさせ、外部研修は資格取得だけでなく専門知識・情勢学習・平和学習など多様な研修に参加しています。２、情勢を毎回の会議で報告していますが、自分事として考える事ができるような提案ができていません。今後の課題です。

【地域や他団体との連携】

１、地域子育てサロンに協力をしています。はびきの園を地域の財産として地域の方に考えてもらえるように進めています。お祭りや地域でのイベントには声をかけてもらえるようになっています。２、ボランティアは引き続きどう関わって貰うか課題です。３、きょうされんを通じて情勢や制度の共有をしてきました。引き続き制度変更などは早く情報を掴み対応していきます。また、そういった事に関心を持てるように発信していく方法を考えます。

2025 (r7) 年度事業報告前期

2026年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はびきの園	生活介護Ⅰ	30	37	2025/4/1～2031/3/31
	生活介護Ⅱ	7	9	2025/4/1～2031/3/31
	就労継続支援Ｂ型	10	8	2025/4/1～2031/3/31
合計		47	54	

職員配置数

事業内容	配置基準	ｻﾋﾞ管	主任	支援員(加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計	サビ管有効期間
生活介護Ⅰ	13.7	1	1		13		2	3	7	15.3	2026.3
生活介護Ⅱ	2.9	1	1		2.4		0.6			3	2026.3
就労継続支援Ｂ型	2.5	1	1		2.9					2.9	2026.3
就労移行											

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男		5	6	13	8		2	34
女	1	2	4	6	6		1	20

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	
生活介護Ⅰ					4	15	18	37	
生活介護Ⅱ						1	8	9	
就労継続支援Ｂ			1	2	4	1		8	
就労移行									

54

協力医療機関　ぶどうの家診療所　御前ドクター

利用率　当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員　(%)

事業所名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
	生活介護Ⅰ	736	754	739	778	743	741	789	696	770	717	646	752	110.0
	生活介護Ⅱ	132	128	124	130	125	130	140	115	130	122	102	126	80.0
	就労継続支援Ｂ型	169	167	170	161	150	166	175	157	169	164	145	172	73.0
開所日数		22	23	22	23	23	22	23	21	23	22	20	23	267
延べ利用率(%)		100	97	99.9	98.9	94.2	100	100	98	99	97	95	97	98.3%

利用者工賃(就労継続紫煙Ｂ型)（円）

最高額/月	34560（34560）	最低額/月	4500（5460）	平均工賃/月	14510.2（15906）

() 内半期前実績

2025 (r7)年度事業報告

事業所名　ほまれっこ

【事業所の特徴】

小さな規模の事業所ですが、職員の配置は求められる事、利用する児童が重度である事で受け入れ数を増やすとそれだけの配置を行う必要がある事で単独の採算は難しい状況です。制度としては加算を取る事が出来なければ運営が成り立たなくなっている事と、報酬を上げると利用者負担額が上がってしまう制度設計がより運営を困難にしています。児童の状況は放デイを利用する事、複数の事業所を併用する形も常態化しています。しかし昨報酬改定の影響か地域の事業所が減りつつある状況で、障害の重い児童は行き場を失っています。学校に行けない児童の受け皿としても考えられるようになってきています。職員の確保には大きな課題があり需要はあっても受け止める事が難しい状況がありました。急な対応や職員が配置できない場合には他事業所からの応援で対応してきました。来年度新規採用者を２名確保でき、職員の状況は変わります。

【事業所運営に関わって】

１、１２名から始まりましたが、２０名まで契約をふやすことができています。利用率も前半期と比較して１名ほど上がりました。児童を増やす課題に取り組みましたが、後半は受け止める環境が作れずに、ニーズに応える事ができない事もありました。小学校低学年の児童が増えたことで長期的に利用がある状況を作ることができました。

２、情報発信は滞り、職員不足で手が回らなかったのが実情です。様々な課題がありますが、職員確保と黒字転換に向けて長期的な計画が必要です。

【利用者支援に関して】

１、感染症対策は取っていますが、２度ほど事業所内で感染症が広がることがありました

２、家族との連携はノートを基本にし、重要な内容は直接伝えています。また、家族との情報共有プログラムを導入し、ノート以外でも情報共有ができるようになりました。

３、多様な年齢層の子供がいる事で年齢間の交流ができる反面、人数が増える事でスペースが少なくなるという課題が出てきました。

【職員育成研修】

１、正規職員は週１回のミーティング、月１回の職員会議で研修など情報共有を行いますが、体制が取れない為会議自体が実施できない事がありました。男性職員の配置が出来た事で同性介助が出来るようになりました。

２、資格取得の研修に職員を派遣することができましたが、資格取得には至りませんでした

【地域や他団体との連携】

１、大阪障害児放課後ネットワーク、はびネットに参加し、大阪府への要望や情報共有、学習会などを行っています。

２、困難ケースは家族、相談事業所、学校、市、子ども家庭センターとの連携を図り、必要に応じてケース会議を実施、支援方法の共有、方向性の確認を行いました。

2025 (r7) 年度事業報告前期

2026年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	契約者数	事業有効期間
ほまれっこ	放課後等デイサービス	10	20	2024/5/1～2030/4/30

職員配置数

事業内容	配置基準	児発管	主任	支援員(加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計	サビ管有効期間
放課後等デイサービス		1	1	5		1			1	9	2028/3/31

契約者数(年齢)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
男		1	1					2	1	3	1	3	2	14
女				1	1	1		1			1	1		6

利用率　当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員　(%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用人数	124	138	137	146	126	139	147	98	140	147	121	171	1634
開所日数(提供日)	23	21	22	23	19	20	24	22	22	21	20	23	260
利用率	54%	66%	62%	64%	66%	70%	61%	44%	63%	70%	60%	74%	63%

協力医療機関　ぶどうの家診療所　御前ドクター

ハピバール

【事業所の特徴】

後期から始まった増築工事は順調に経過しており、４月中には完成の予定になっています。就労支援事業収入の課題では、シルクスクリーン印刷による T シャツ作成や市役所からの配達注文など新たな試みをいくつか実施していますが、まだ実を結ぶには至っていません。家族の高齢化により家族の入院などで送迎など新たな支援が必要になることもありました。

【事業所運営に関わって】

ハピバールの空間の狭さを解消するため増築を開始しました。

退所で利用者が 19 名となったこと、なかまの高齢化や体調不良などで欠席をされることも増えたことで生活介護、就労継続支援 B 型ともに利用率が低下しています。

【地域とのつながり】

西浦小学校とは 1 月には合同避難訓練、3 月には交流活動を行いました。市内幼稚園の卒園制作に今年も協力をおこないました。

今年度よりオレンジカフェを毎月開催し、地域の交流の場として場所を提供しています。

校区福祉委員会に参加して、地域の状況を知るとともにハピバールを知ってもらう機会としています。峰中出張カフェやまちまるしぇなどイベントにも出店しています。

【利用者支援に関して】

【労働】＜カフェ＞

インスタグラムのストーリー投稿も行うことで情報発信に努めました。食材価格の高騰により 10 月から値上げをおこないました。近隣作業所や学校からの利用も増え貸切営業することも増えています。毎週金曜日に市役所からの配達の注文を受け始めました。店内にアトリエで描いた絵の展示を継続的に実施しています。

＜ワークス＞

果物の下処理作業は新しく仕入れ先を見つけ、定期的に作業を行いました。陶芸作業は毎日取り組み、各工程の作業もなかまが安定して取り組めるようになっています。その分在庫が増えています。各種コンクールなどにも応募を行い入選、入賞しています。

【生活】

今年のボーナスは赤字のため１カ月分の支給となりました。暑さ対策から循環バスの号車変更をしましたが、なかまの体調変化にあわせ変更したままのルートを利用しています。運動不足解消と仕事と休憩の切り替えのため午後の作業前にもラジオ体操をとりいれています。

【集団】

今年度も班での役割を分担に加え、全体で取り組んでいる活動でも役割分担などをおこないました。各班の班長を決め、班長会を実施するなど自治会として少しずつ動き出していますが、内容の理解は難しいことも多く、今後どのように運営していくか検討が必要です。

2025 (r7) 年度事業報告前期

2026年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ハピバール	生活介護	10	11	2023/4/1~2029/3/31
	就労継続支援Ｂ型	10	8	2024/4/1～2030/3/31

職員配置数

事業内容	配置基準	ｻﾋﾞ管	主任	支援員(加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計	サビ管有効期間
生活介護	1.7:1	1			6		1	3	2	8	2027/10/13
就労継続支援Ｂ型	7.5:1	1			4			3		4	

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	0	2	1	3	1		2	9
女	0	6		4				10

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均
生活介護				1		6	4	11	5.1
就労継続支援Ｂ	2			3	1	2		8	2.8

協力医療機関　ぶどうの家

利用率　当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員　(%)

事業所名	ハピバール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護		222	220	222	240	217	224	238	218	224	228	201	223	99.9%
就労継続支援Ｂ型		155	136	131	144	114	128	133	125	124	124	121	135	58.6%
開所日数		22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	20	23	268
利用率		82%	74%	76%	80%	69%	76%	77%	74%	72%	76%	77%	74%	79%

利用者工賃(就労継続支援Ｂ型)(円)

最高額/月	11000	最低額/月	225	平均工賃/月	10187

2025年度はばたき事業報告

はばたき（府営）

法人でのグループホーム第１号の住宅ということもあり、設備が老朽化していたり、近隣の過疎化の課題があります。現状では、4階という立地でも問題なく暮らすことができるメンバー構成のため、府営住宅での暮らしが、特に一般企業で働く仲間にとっては良い環境ではないかと思います。

居室への出入りを嫌がる人も多く、職員の「気づき」ができきれていない部分が課題です。

大西記念センター（第２はばたきホーム・第３はばたきホーム・あさがおホーム）

はびきの園の職員から応援にきていただき、草木の処理を手早くしていただけ、敷地内もかなりすっきりしました。事業所の職員でもしていきながら、引き続き可能な限り応援をいただけたらありがたい状況です。

はばたきアネックス（ハミング・ハーモニー）

安定した、自分のペースで「自分らしい暮らし」が、できてきているように感じられます。ハーモニーの仲間は、自分たちでイベントの提案をおこなうなど、ホームでの暮らしは「楽しむ場所」として過ごしているのが見受けられます。

健康・イベント

感染症の時期などは、交替勤務の兼ね合いで感染が広がるリスクが多いかと思いますが、感染することなく今年度は乗り切りました。コロナ渦以降、居室での食事を基本としていましたが、リビングでの食事を始めているホームもあります。みんなの楽しみである食事を共にすることで、食の楽しさを感じてもらえたらと思います。また小さなイベントをすることで、ホームでの「集団」を感じることもできています。

職員の学習と情報共有

常勤職員は、自由テーマで「学習発表（プレゼン）」の機会を設け、自分自身での学びの機会となりました。次年度も引き続きおこなっていきたいと思います。滞っていたキーパー会議を開催することができました。

選挙の取り組み

市会議員選挙や参議院選挙など、障害があっても「選挙にいく権利」があるため、選挙当日にホームにいる仲間限定ではあるが、ホームから選挙に行っています。

事前の学習会などはおこなうことができていないため、自分たちの暮らしを守るためには、どんな人に、どんな政党にいれた方が良いのかの「ミニ学習」を今後おこなっていけたらと思います。

人員確保

働きやすい職場づくりと環境を整備していきたいと思います。引継ぎ時は煩雑であったりすることで、勤務時の戸惑いや不安の解消になり得ていないため、その後のフォローをしていくことも重要かと思います。

社会福祉運動

公的福祉を守り、「社会」として、グループホームの制度が充実していくように維持、発展していく「運動」をきょうされん、社会福祉経営全国会議などと一緒に、これからもおこなっていきたいと思います。また、世界では戦争が起こっています。戦争をすることで、障害のある方の「福祉」はもちろん、経済状況など多くの人に悲惨な影響が出てくることは明らかです。「平和」を求める行動もしていきます。

ほまれの里　2025 事業報告

① 安心と自分らしい生活を保障します

・自宅ではしっかりと眠れるがショートステイでは興奮して眠れない利用者も回数を重ねる中で安心して眠れるようになりました。眠れない間は、興奮を助長しないよう、つかず離れずの対応をしてきました。

・一部のケースについて、相性が良くない利用者との利用が重なることを心配する声がありました。しかし、入所直前では多少の興奮があったもののプライベート空間の中で落ち着いて過ごすことができました。

② 利用しやすい事業所を目指します

・朝に支援学校までの送迎を希望する利用者が徐々に増えてきました。2 便体制にする、職員の勤務時間を変更するなどして対応しました。

・利用希望の連絡の中で、介護負担や家族の用事等、緊急性を訴えるケースもありそのようなケースについては柔軟に利用頻度を変更するなど対応してきました。

③ 利用者が気持ちよく過ごせる環境を作ります

・日常清掃では手が行き届かない窓（室内、室外）や周辺の除草作業を行いました。また、日中事業所の職員を派遣してもらい事業所全体の除草、木の伐採が出来ました。処理が残っているため数回に分けて処理を行っていきます。

・テレビの利用を希望する利用者が増えたため、貸出用に 2 台を新たに購入しました。今後も利用者一人ひとりが快適に過ごせる環境整備に努めていきます。

④ 利用者の安全を守ります

・敷地外への飛び出しの恐れがある利用者がいるため、二重施錠とダブルチェックの体制を継続して行っています。

・上半期は服薬ミスゼロを達成しましたが下半期は１件服薬の飲み忘れがありました。家族から薬を預かった際別に梱包されていて気付かなかったのが原因です。薬のダブルチェック等の服薬ミス防止の手段に関しては継続するとともに家族からの薬の引継ぎ方にも注意していきます。

⑤ 人材の確保、育成を行います

・女性アルバイトが年末に２名退職したために一時女性利用者の調整が難しい月がありましたが、新たに週１回勤務できる女性アルバイトが１名入職しました。

・職員の資質向上を目的に、事業所全体で個人学習の機会を設けました。それぞれが必要と感じるテーマを設定し、学習内容を発表・共有することで、支援の質向上につなげています。来年度も継続して取り組んでいく予定ですが、よりステップアップできるよう内容については検討していきます。

・「虐待防止チェックシート」および「バイステックチェックシート」を活用し、日々の業務を振り返る機会を設けています。これにより、倫理的視点と支援技術の両面から、職員一人ひとりの成長を支援しています。

2025 (r7) 年度事業報告前期

2025年9月30日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はばたき	共同生活援助	34	34	令和6年10月１日～令和12年9月

職員配置数

事業内容	配置基準	ｻﾋﾞ管	主任	支援員(加算)	支援員	世話人		計	サビ管有効期間
共同生活援助		2			7	20		29	令和9年３月 令和１１年１月

利用者数(年齢)

	未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男			4	9	10			23
女			1	5	4		1	11

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計			定員	建物	
はばたき				2	1	1	1	5			5	府営住宅	
第2はばたき						3	4	7			7	法人所有	
第3はばたき						1	5	6			6	法人所有	
あさがお						4	2	6			6	法人所有	
ハミング						2	3	5			5	法人所有	
ハーモニー					1	1	3	5			5	法人所有	
計				2	2	12	18	34			34		
利用率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(%)
はばたき	94.7	91.6	92.7	92.9	115	116.7	93.5	91.3	89.7	87.1	92.9	93	
第2はばたき	81.4	78.8	84.3	84.3	82.8	85.7	86.2	84.3	82.9	80.6	85.2	83	
第3はばたき	71.1	86.1	79.4	80.1	78.2	81.1	88.7	78.9	81.2	78.5	86.9	81	
あさがお	87.8	88.2	88.9	88.2	87.9	87.8	87.6	87.2	86.6	84.4	86.3	90	
ハミング	68.7	69	72.7	71	69.8	72	72.9	65.3	71.6	65.2	69.3	74	
ハーモニー	62	60	66.7	69.7	63.5	62	67.1	56	60	60	62.1	65	
計	78%	79%	81%	81%	83%	84%	83%	78%		77%	81%	81%	81

協力医療機関

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ほまれの里	短期入所	5	45	R２/10/1-R８/9/30

事業内容	配置基準	ｻﾋﾞ管	主任	支援員(加算)	支援員				計	サビ管有効期間
短期入所	5:01									

事業内容	1	2	3	4	5	6	計	平均
短期入所		1	3	5	7	5	21	4.6
児童		1	10				11	2.9

※児童区分は１～３まで

協力医療機関

当月利用率/(当該月日数)*定員

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均%
ほまれの里	24	28	23	32	27	32	43	40	44	42	35	42	34.3

2025 (r7)年度事業報告（案）2025/4/1～2026/3/31

事業所名　支援センターはる（相談・支援）

【事業所の特徴】

1.　障害者基幹相談支援センター

1)　主な取り組み

①総合的・専門的な相談の実施②地域の相談支援体制強化の取り組み③地域の相談事業者への専門的な指導助言、人材育成④地域の相談機関との連携強化⑤地域移行・地域定着の促進の取り組み⑥権利擁護・虐待の防止⑦重層的支援体制整備事業への参画。

連携を強める取り組み①羽曳野市障害福祉課との定期的な連携会議。②情報提供・新規シートの運用③域移行・地域定着促進のため、はぴねっとへの参画④羽曳野市地域自立支援推進会議の再編に向けた調整。

2)　ネットワークの形成・参画

○　南河内障害者支援センター連絡会 4/15、6/10、8/20、10/20、12/22、2/18)

○　大阪府地域自立支援協議会情報交換会　(7/12、2/4)

○　南河内ブロック進路指導関係者連絡会議（12/24 西浦支援学校)

○　羽曳野市虐待防止ネットワーク会議　(10/20)

○　羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク交流会　(9/17, 2/24)

○　ふれあいネット雅び　(9/25)

3)　羽曳野市地域自立支援推進会議

○全体会（5/29、10/30）運営会議（4/11. 6/13. 8/8. 10/10. 12/12. 2/13.）

○医療的ケアネットワーク（7/17)

○相談支援部会（5/9. 7/11. 9/19. 11/7. 1/16. 3/13)

○大阪府発達障がい者地域支援力向上事業

(4/18. 6/26. 8/19. 10/21. 12/25. 2/26)

2.　委託相談支援

1)個別相談

①　福祉サービスを利用するための情報提供、相談

②　社会資源を活用するための支援（各種支援施策に関する助言、指導)

③　社会生活力を高めるための支援

④　専門機関等の紹介など

昨年度末をもって、精神分野の委託相談事業所が閉所

2)ピアカウンセリング　ピアカウンセリングは予約相談。

3)ケース会議開催

4)認定調査（99 件）　3 月末現在

3.　特定相談支援　　実人数 91 件（3 月末現在)

相談支援専門員の数は増加しているものの、需要に対して供給が追いついていないのが現状です。

4.　地域移行・地域定着（一般相談支援）　0名（10月末現在）

①　地域移行支援　②　地域定着支援

【事業所運営に関わって】

委託相談事業所（精神）の閉鎖や慢性的な計画相談支援事業所不足により相談支援事業（委託相談）・計画相談に移行が出来ず、基幹で対応せざるを得ない状況になっている。羽曳野市障害福祉課と定期的な協議を行い早期の体制整備を求めています。

【職員育成研修】情勢を把握。各職員がテーマを出し、事業所内研修を行っています。

【中期計画に対して】

①　業務や役割の見直し。AI等の活用（

②　職員育成プランの可視化

この2点に関して、進んでいるとは言い難く、基幹相談支援センターを受諾した場合を見据えても、中期計画の検証・見直しを行った上で取り組みを進めていきます。

障害者就業・生活支援センター事業　報告

障害者の職業生活における自立を図るため、雇用、保険、福祉、教育等の関係機関の下、障害者の身近な地域において就業面及び生活面における一体的な支援を行います。

1. 就業・生活支援活動の実績

1）就業・生活相談　令和7年4月～令和8年3月　登録者数　616　名

○障害者に対する相談・支援の内容（就業・生活相談）

・平日フルタイムで働いている人や家族への対応については、状況に応じて土曜日面談設置。

・成年後見制度の利用や金銭管理が必要な方への情報提供なども行っています。

・年金申請に係る相談に関しては申請方法や社会保険労務士などの情報提供とサポートを実施。

・福祉サービスの利用支援、通院同行、家庭訪問

・グループホームへの入居希望や一人暮らしの相談者も増え、他機関との連携をしています。

2）職業準備訓練から就職・職場定着にいたるまでの支援

①訓練のあっせん

○基礎訓練（併設施設および提携施設）12 名（前年度17名）

○職場実習　26 名　＊前年度：21 名　主な実習先：リネン、商品管理（軽作業等）、清掃な

○職業評価 4 名（精神）　＊前年度 6 名

②就職支援

○就職者数　39 名（身体 1 名、知的 20 名、精神 18 名）

＊前年度:22（身体 1 名、知的 12 名、精神 9 名）

主な就職先:食品製造、製造業、販売、事務(事務補助含む)など

心身ともに就労準備が整っていない新規相談が増えており、アセスメントに必要な訓練や実習にたどり着くまでに時間を要するケースも増えています。就労継続支援 B 型へつないでいくケースも増えました。

3)就職者に対する支援

○定着支援　ww・職場訪問による支援 387 件　＊前年度 330 件

高校を卒業してすぐに就職された方については社会生活に慣れず仕事に影響し、安定するまで非常に時間がかかるケースや、転職を希望する方への対応も行っています。

○余暇支援活動(はるくらぶ)職場定着促進のための在職者交流活動

交流企画

・6 月 14 日(土)「海遊館」参加者:23 名／職員:4 名

・9 月 6 日(土)　「カップヌードルミュージアム」 参加者:22 名／職員:3 名

・12 月 14 日(日)「調理教室」 参加者:21 名／職員 2 名

・2 月 7 日(土)　「企画会議・食事会」 参加者 20 名／職員 2 名

女性企画

・5 月 17 日(土)「旅行の組み立て方＆カフェで意見交換」参加者:10 名／職員 2 名

男性企画

・9 月 6 日(土)「宴席での交流、関わり方とお酒のマナー」参加者:10 名／職員 2 名

・1 月 17 日(土)13:00～15:00 「睡眠について」参加者 14 名／職員 2 名

職場定着促進のための在職者交流活動

学習会

・7 月 5 日(土) LIC はびきの 会議室 「コミュニケーションについて」 参加者 11 名／職員 3 名

・1 月 17 日(土)13:00～15:00 「睡眠について」参加者 14 名／職員 2 名

ピアサポート

11 月 17 日(月)就労移行支援事業所　支援センターわっと

2. ネットワークの形成

国等が主催する会議・研修等への出席

地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

○定例参加会議(主なもの)

・大阪障害者就業・生活支援センター連絡会

・障害者就業・生活支援センター全国連絡会・地域ブロック会議

・羽曳野市地域自立推進会議

・松原市地域自立支援協議会

・藤井寺市障害者地域自立支援協議会

・南河内支援学校進路指導会議　　など

○障害者の就労を支援する機関との連絡会（ジョブネット”トライアングル”）

＊定例会議

事務局：南河内北障害者就業・生活支援センター

参加事業所：就労移行支援事業所・就労継続支援Ｂ型事業所・地域活動支援センター

障害福祉課、産業振興課（3市）・ハローワーク　15事業所

・5月23日（金）・7月25日（金）・9月26日（金）11月28日（金）・1月23日（金）

＊運営会議：

4月9日（水）、6月12日（木）、8月6日（水）10月2日（木）、12月3日（水）　2月4日（水）

拡大会議　2月16日（月）「引きこもり支援について」

○中河内・南河内エリア対象「地域で考える就労選択支援事業準備セミナー」の開催

2025年6月27日（金）　主催：就労選択支援事業準備セミナー実行委員会

○障害者雇用フォーラム・働く障がい者のパネル展

2025年10月31日（金）　企業の障害者雇用担当者とのパネルディスカッション

テーマ：「働きたい」を実現！障害者雇用ができる環境と働きやすい職場の作り方

登壇者：日本ドリーム株式会社／サントリービジネスシステム株式会社

日清医療株式会社／積水ハウス株式会社

・パネル展「働く障害者の姿」

○企業交流会　・9月11日（水）参加企業数：4社　2/10　参加企業数6社

3.　その他

○羽曳野市障害者雇用相談日時：第3木曜日4件2025年度で終了

4.　中期計画に基づく取り組みについて

・日々の個別ケースの相談以外に、職員会議のケース会議で行き詰っているケースなどの意見交換などを行っています。

・事務の簡素化に向けてマニュアルの作成を行っています。

・年間計画や担当者割を行い、役割の明確化を行いました。

・相談者に対する対応や支援方法などを職員間で確認できるように職員会議でテーマを設けて意見交換を行っています。

・相談支援事業と合流したことにより、日常の生活支援に関する情報共有をうまくできるようになっています。また、基幹相談支援との連携も行っています。

・就労選択支援事業に向けての情報収集と準備を行いました。

2025(r7)年度事業報告

2026年3月31日現在

1 相談支援事業

事業所名	指定事業名	事業有効期間
支援センターはる	羽曳野市相談支援事業	25(r7)/4/1-2026(r8)/3/31
	相談支援機能強化推進事業	25(r7)/4/1-2026(r8)/3/31
	指定特定相談支援	24(r6)/4/1-2030(r12)/3/31
	地域移行支援	25(r7)/1/1-2030(r12)/12/31
	地域定着支援	25(r7)/1/1-2030(r12)/12/31

-1 職員配置

相談支援	相談支援専門員4(パート2)．相談員1	
ケアマネジメント推進員(障害分野1含む)		市相談支援機能強化推進事業
聴覚ピアカウンセラー・手話通訳者		随時、電話予約対応
肢体ピアカウンセラー		随時、電話予約対応

		受講年月日	期限
主任相談支援専門員	渡辺博子	2025(r7)年11月受講	2030(r12) 年度
主任相談支援専門員	安藤洋美	2024 (r6) 年11月受講	2032r14年度
主任相談支援専門員	吉村栄夫	2025(r7)年11月受講	2030(r12) 年度
相談支援専門員研修	志伯久仁子	2025(R7)年3月5日受講	2030(r12) 年度

-2 主たる業務

1．障害別相談・支援利用者件数　※重複障害はそれぞれにカウント

障害 / 市町村	実人数	身体障害	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病
羽曳野市	138	15	5	71	57	18	3	9
合　計	138	15	5	71	57	18	3	9

2．支援方法・支援内容ごとの件数

支援方法	件数 一般相談に係る件数
訪問	23
来所相談	16
同行	11
電話相談	210
電子メール/FAX	24
オンライン	3
個別支援会議	11
関係機関からの紹介	13
その他	2
合計	313

※電話相談・電子メールは、問題状況が軽減されたり、解決の方向に向かった場合に計上する。日程の連絡など軽易なものは含まない。

支援内容	件数 一般相談に係る件数	(再掲) ピアカウンセラー支援件数
福祉サービスの利用等に関する	219	0
障害や病状の理解に関する支	2	0
健康・医療に関する支援	66	0
不安の解消・情緒安定に関する	32	0
保育・教育に関する支援	6	0
家族関係・人間関係に関する支	63	0
家計・経済に関する支援	40	0
生活支援に関する支援	95	0
就労に関する支援	22	0
社会参加・余暇活動に関する支	1	0
権利擁護に関する支援	17	0
その他	14	0
合計	577	0

2 南河内北障害者就業・生活事業（羽曳野市・松原市・藤井寺市）

2008年度より国(厚生労働省労働局)の事業に

名称	住所
南河内北障害者就業・生活支援センター	羽曳野市白鳥3丁目16番3号

職員配置

管理者	1	雇用安定等事業
主任就業支援担当者	1	
就業支援担当者	2	
生活支援担当職員	2	生活支援等事業・体制強化事業

1．就業・生活支援活動の実績

(1)就業相談

2025(r7)年度登録者数　616名（昨年度652名）

①（現状および障害別内訳）

	障害				
就業状況	身体	知的	精神	その他	合計
在職中	20	250	118	3	391
求職中	17	66	88	9	180
その他（訓練等必要な人）	2	24	18	1	45
合計	39	340	224	13	616

※障害のその他とは、障害者手帳を所持していない方

・新規相談件数 68 （前年度：54）

②障害者に対する相談・支援件数

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
94	1164	864	39	2161

※相談・支援内容は、面接・電話・家庭訪問・ケア会議・職場実習支援・就労定着支援・生活支援等

○ 羽曳野市障害者雇用相談　　4 件

2025 (r7) 年度事業報告

2026年3月31日現在

1 相談支援事業

名称	住所
羽曳野市基幹相談支援センター	羽曳野市白鳥三丁目16-1
指定事業名	事業有効期間
委託(羽曳野市)	25(r7)1/1/-2029(r11)12/31

-1 職員配置

管理者（兼相談支援専門員）		1	羽曳野市相談支援事業委託	
相談支援専門員		4		
		受講年月日		期限
主任相談支援専門員	石本悦二	2025(r7)年11月受講		2030(r12) 年度
主任相談支援専門員	山下記永	2024 (r6) 年11月受講		2032r14年度
相談支援専門員研修	矢城百合恵	2025(r7)年11月受講		2030(r12) 年度

羽曳野市地域自立支援推進会議事務局

-2 主たる業務

(1) 羽曳野市委託相談支援

1) 個別相談

相談者数　　実人数　478　名(4/1-3/31)

障害	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機	難病
基幹相談	58	18	238	192	64	10	31

(実施方法)　委託相談

内 容	件数
家庭/施設等訪問	77
面接(センター来所)	54
同行	38
電話/	802
FAX/メール	81
オンライン	13
ケース会議	53
関係機関からの紹介	225
その他	9
合計	1352

支援内容	件数
福祉サービスの利用等に関する相談	731
障害や病状の理解に関する支援	7
健康・医療に関する支援	222
不安の解消・情緒安定に関する支援	109
保育・教育に関する支援	22
家族関係・人間関係に関する支援	211
家計・経済に関する支援	134
生活支援に関する支援	318
就労に関する支援	75
社会参加・余暇活動に関する支援	3
権利擁護に関する支援	59
その他	48
合計	1939